

に対して、5mCi の  $^{99m}\text{TcO}_4^-$  を 20ml の水に希釈し、ストローですすらせ、食道、胃の閉塞性病変（食道癌、外因性食道閉塞、幽門狭窄）が明瞭に摘出された。

2. 経口投与による、血流、リンパ内への移行を検討する方法： $^{99m}\text{Tc-BLM}$  をゴマ油と水とに懸濁させ、胃癌症例に経口投与したが判然としたリンパ節描画は得られなかった。

3. 経静脈投与による消化管粘膜の集積像を描出する方法：10mCi の  $^{99m}\text{TcO}_4^-$  を静注すると、全例（9例）に胃壁への集積が認められた。集積程度は低いが、小腸へも集積した。胃癌症例では、粘膜欠損像が認められた。

4. 経静脈投与による胃分泌機能を検討する方法：上述のシンチグラフィーを行なう時、胃壁を含む領域の放射能計測を経時的に行なった。胃癌症例で、分泌低下が認められた。

以上より、 $^{99m}\text{TcO}_4^-$  の経口あるいは経静脈投与により、上部消化管の閉塞性病変の描出が可能であり、特に重症嚥下困難の症例、食道癌の症例では第一選択の検査法と考えられる。さらに静注法は、胃管を用いない胃粘膜分泌機能検査法として利用できる新しい方法であると思われる。

### 3. 脇シンチグラムへのセルレイン刺激の応用 (第1報)

佐藤 幸示 筒井 一哉  
丹羽 正之  
(県立ガンセンター新潟・内)  
清水 克英 渡辺 清次  
萩野 幸二  
(同・放)

最近核医学の進歩は目覚しいが、脇シンチグラフィーに関しては、いま一歩の遅れを取っている。私たちは、セルレイを前処置することにより、 $^{75}\text{Se}$ -メチオニン脇への集積を高め、良いシンチグラムを得たので報告する。

【対象と方法】当院の25歳から75歳の男37女20例を対象にした。そのうち32例は早朝空腹時に

$^{75}\text{Se}$ -メチオニン 500  $\mu\text{Ci}$  を静注し、15～30分後にスキャンを行ないセルレイン未処置群（セ未群）とし、他の25例には早朝空腹時にセルレイン 10  $\mu\text{g}$  を筋注し15～20分後に  $^{75}\text{Se}$ -メチオニンを静注、同じく15～30分後にスキャンを行なって、セルレイン処置群（セ群）とした。その2群のシンチグラム所見と臨床成績などを参考に比較した。

【成績】1. 脇への RI の集積を良好なものから全くないものまで、(+)、(+)、(±)、(−)の4段階に比較分類したところ、セ未群32例では、(+)1例、(+)11、(±)10、(−)10例であったが、セ群25例では、(+)15、(+)5、(±)4、(−)1例で、(+)と(+)を合せた数の比較で、1%以下の危険率で、有意にセ群が多かった。2. DM 患者は両群5例ずつあったが、セ未群の5例は(+)1、(±)2、(−)2例であるのに比し、セ群は(+)4例、(+)1例であった。

【結語】1. セルレイン 10  $\mu\text{g}$  筋注により、良い脇シンチグラムが得られる。

2. DM 患者の改善は著しいと考えられ、内分泌と外分泌の相関が示唆される。

### 4. Polycystic Disease の肝シンチグラム

渡辺 定雄 李 敬一  
(青森県病・放)  
村沢 正実  
(弘前大・放)

われわれが昭和47年2月から52年6月まで行なった1,222例の肝シンチグラフィーの中で Polycystic liver と確診し得た4例につき検討を加えた。

診断された時点での年齢はすべて40歳以上で、1:3で女に多かった。2例に家族発生が見られた。

囊胞腎の合併は全例に見られた。うち1例に脳動脈瘤の合併がみられた。

肝シンチグラム上の頻度は0.33%であり、そのシンチグラム所見は、肝腫大を伴った両葉にわたるmultiple defects で specific な所見は見出せなかった。

臨床的な特徴として、著明なシンチグラム上の